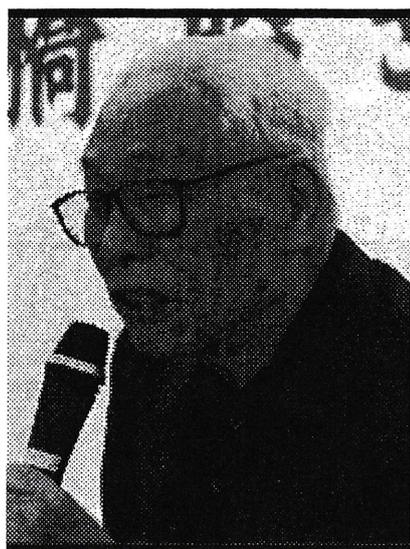


# 杉本昭典さんを偲ぶ

松上 辰之

共産党から別れた「社会主義革新運動」はさらに別れ、我々の先輩は「統一社会主義同盟」を結成した。杉本さんらは「別の道」を歩むことになったが、故中島秋生さんをはじめとする私たちの先輩だけでなく、私のような若輩者・新参者にも温かく接していただいた。心よりご冥福をお祈りいたします。「あまがさき共生と自治21」と松上辰之さんの了解を得、『波WAVE21』N O74の追悼文を転載させていただきます。  
(兵庫・中村登)

戦後 革新運動を尼崎のみならず関西・全国で先導されてきた杉本昭典さんが 2月17日早朝 永遠に旅立たれました。満年齢93歳 心よりご冥福をお祈りいたします。



62年前の1959年9月、16歳の私は兵庫県警機動隊300名と対峙していた。兵庫県高等学校教職員組合の勤評闘争の過程で解雇された2名の教師を守るため、城内高校

生徒会は、教育委員会から送り込まれてくる新任の教師の登校を阻止するため、校門でピケを張り「夕焼け小焼けの赤とんぼ」の歌をうたっていた。私たち生徒の隊列の前に教師や支援の人たちもスクラムを組んでいた。

逮捕者が出た。その数日後の釈放時、尼崎中央警察署に私たち生徒会の有志も歓迎出迎に行った。その人が杉本昭典さんだった。その時はまだ杉本さんがどんな人か知る由もなかったが、自分のことでもないのに闘って逮捕された姿にかすかに尊敬の念を持った記憶がある。

1961年、民主青年同盟・城内高校班を組織していた。日本共産党8回大会の綱領問題で私(たち)は同盟を除名された。綱領めぐる問題というより同盟内民主主義の問題で地区委員会(同盟)に抗議した結果である。だが、私(たち)が「杉本一派」

だということが本当の理由だと思っている。

その少し前、杉本さんたちは共産党を除名され、全国の同志たちと「社会主義革新運動(社革)」を組織されたが、私も当然のごとくその組織に加入した。というより杉本さんについていったという方が正しい。

尼崎の玉江橋に、社革の事務所が開設された。私はそこに毎日のように出入りしていた。

ここで杉本さんと親しくしていただき、いろいろと話を聞いた。「会社との団体交渉が勤務時間内で終わった場合は、他のメンバーは帰ったが俺は職場に戻り働いた」という話は、いたく私の胸に響いた。ここに杉本さんの活動に対する基本的な姿勢が表れているように思っている。私に強く影響を与えた人である。

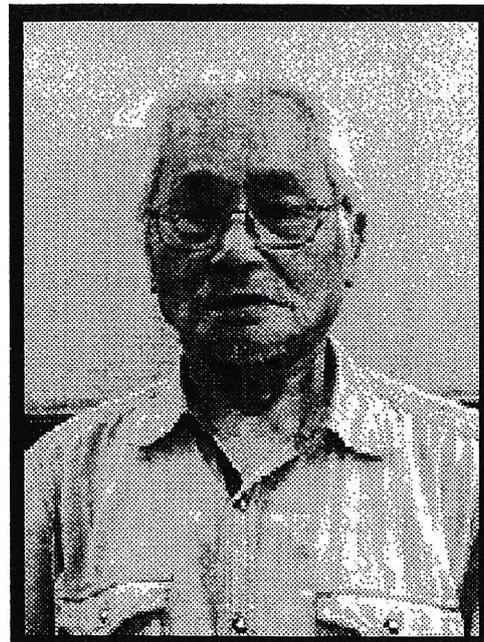
# 菊永 望さんを偲ぶ

小原 吉苗

菊永望さんに私が初めてお会いしたのは、1974年6月、

三里塚芝山空港反対同盟の戸村一作委員長が参議院選挙に出馬した年で、菊永さんは戸村選対の関西事務局をされていた。私は、三里塚現地の団結小屋の常駐員で、梅田の喫茶店で現地の話を聞いてもらったと思う。

いようだったが、数年前に聞き書きをお願いすると、「終戦を境にね、それ以前の俺はどうだったか、戦後、戦争に反対して労働運動をするわけだがどうしてか、一度話してもいいかな」と気楽に応じていただいた。阪急武庫之荘駅前の、菊永さんが藤井新造さんや大橋昭さんとよく集まって議論したというお気に入りの喫茶店の2階で何度か話を聞いた。



菊永さんは、日本の本土防衛の最前線だった鹿児島県の知覧飛行場のすぐ隣にあった薩南工業学校の生徒として戦争を体験され、終戦を迎えた。戦後の混乱

期、集団就職のはしりになるのか尼崎製鋼所に就職し、労働組合と出会い、反戦運動に取り組み、尼鋼争議に敗北するまでの青春時代の話を聞くことができた。

一つ一つ大変な体験なのが、明るく、飄々と話す菊永さんの話しぶりからは、常に時代を、自分自身を冷静に見つめて生きてこられたことが感じられた。

昨年自宅を訪問したのが最後になり、続きを聴くことができなかったのが残念です。

冥福を祈ります。

「あまがさき共生と自治21」ニュース『WAVE』No.78より転載させていただきました(編集部)

## 公共民間の 草分け的存在

神戸・中村 登

菊永さんは鹿児島県から出て

きて、兵庫・阪神地区に根づいた「革命家」である。私が菊永さんと知り合ったのは、故中島秋生さん(共産党→統社同・フロンツの神戸の大先輩)を通じてであった。

中島さんは、神戸市の外郭団体である「神戸市都市整備公社」の駐車場管理員(「キップもぎ」として働き、1972年に「整公労(神戸市都市整備公社現業員労働組合)」を結成し、今では「公共民間の」草分け的存在として活動された人であった。

中島さんのモットーは、一つは「我々は高齢者だが労働者である。(だから)赤いちゃんちゃんこ」は欲しくない」、二つは「外郭団体の仕事は年金のない高齢者、障害者に開かれるべきだ。市のOB・OGは遠慮すべきだ」というもので、今でいう「困窮者雇用」「障害者雇用」であった。

晩年中島さんは後継者を探し

ていた。後継者といっても、仲間にはみな高齢者でしかも自営業者だった人が大半で、労働組合のことを知っている仲間は皆無であった（定期大会の議案書作成や外郭団体労組協議会の結成等の「裏方」を私が手伝っていたような状況であった）。

このようなとき「白羽の矢」がたつたのが菊永さんであった。「中村、ピツタリの奴が見つかつたぞ」。中島さんは非常に喜んでいた。菊永さんは整公労書記長に就き、中島さんが病魔で逝つたあとは委員長として活動された。

菊永さんは「中村君、（中島の）おっさんのようにはできません。市のOB・OGに加え神鋼、三菱、川重の退職者がどんどん入ってきてよる。おっさんならストップできたかも知れんなあ」とよくぼやいていた。ほどなくして菊永さんは退職し、活動を尼崎に移したが、我々との関係

はここ数年前まで続いた。

菊永さんは非常に頭がいい人で、思想的には根っからのポリシェビキであった。共産党時代のこと、社革（社会主義革新運動）時代のこと等を克明に記憶されていて、いろんなことを教えていただいた。心に裏表がなく、自分を率直に表現される人であった。心からご冥福をお祈りします。

合掌

## 編集後記

●ロシアのウクライナ侵攻以降、フィンランド、スウェーデンのNATO加盟申請、西欧諸国の軍備増強、中東で長年対立してきたサウジアラビアとイランの外交正常化、そして存在感を増すグローバルサウスなど国際政治の構造変化が急進展している。3月中旬の日韓首脳会談と関係正常化、岸田政権の防衛費増強と敵基地攻撃戦略への転換もこうした文脈で理解することなのか。しかしそれにしても危うい道であることは確か。

●このところ全国感染者数が3000人を切る日もあり、新型コロナ感染拡大第8波もようやくピークアウト、3月13日から新型コロナ対策としてのマスク着用が「個人の判断」に委ねられた。しかし、アメリカでは免疫が効きにくく、拡大のおそれがある変異ウイルスが広がり、専門家は「警戒が必要」との判断。マスク着脱自由化から1週間、車内、店内、混雑時に「着用継続」の人が9割超、まだまだ感染防止の切り札は手放せない。

●4月9日、23日の統一地方選投票日が迫っている。同時期に衆参5つの補欠選挙も行われることから、関心の高まりが期待されるが、近年、知事選の投票率が5割を切り、41道府県議選では33地域が戦後最低の投票率だった。しかも「なり手不足」から市町村議選を含む全選挙区で26.9%が無投票当選という現実が横たわる。今号で各地の話題の選挙区状況報告を企画したが、反応がいまいち。地方自治に熱い視線を！

（平）